

市一志庁舎から県道15号(久居美杉線)を西に進むと、右手に「とことめの里一志」が見え、その北側に広がる丘陵は住宅団地になっています。この丘陵は東西約1.5km、南北約0.8kmで、地元では上野山と呼ばれ、古くから石器や土器片が多数散布し



上野山3号墳全景

ていることが知られていました。昭和20年代の調査記録などによると、上野山には60基余りの古墳が存在し、中には石棺のほか埴輪が出土した古墳もありました。

昭和40年代に浄水場建設と宅地造成の計画があり、これに先立って試掘調査が行われました。しかし、開墾や土砂の流出のためか、遺跡の多くが消滅したようで集落跡などは確認されませんでした。古墳は、造成の際、公園緑地として現地に保存された上野山3号墳のほかにも6基の古墳が確認されましたが60基には遠く及びませんでした。6基の古墳は発掘調査が行われ、6世紀中頃から7世紀中頃にかけての横穴式石室が確認されています。

上野山3号墳は、現在、高野団地内の「たご山公園」の中に保存されていて、地元では「大塚」と呼ばれています。直径が27mもあり、一志地域では最大級の円墳ですが発掘調査は行われていません。古墳の斜面には小さな川原石を敷き詰めていたようで、5世紀ごろに築かれたと考えら

れています。上野山3号墳は、一志地域では早い時期に築造された規模の大きな古墳であり、地域の古墳形成過程を考える上で貴重な存在です。現在、上野山3号墳は外観を見学することができません。古墳の東側に立つと、雲出川の下流域が一望でき、ここが古墳を築くのに最適な場所であったことがよく分かります。千数百年の時を経て、消滅を免れ、大切に保存されている古墳を一度訪れてみてはいかがでしょうか。



文・写真▶教委生涯学習課

コミュニティ助成事業(宝くじ助成金) 豊が丘地区の防災備品を整備

コミュニティ助成事業は、自治総合センターが宝くじの受託事業収入を財源とし、宝くじの社会貢献広報事業として、地域社会の健全な発展を図るために行っているものです。

豊が丘地区自主防災協議会は、平成27年度のコミュニティ助成事業を活用し、テントやトランシーバーなどの備品を整備しました。これらの備品は、平成27年8月に行われた豊が丘地区の避難訓練で活用されました。

